

人生、毎日が挑戦。

太陽の花

沖縄県花卉園芸農業協同組合

受け継がれる技術と飽くなき探究心

沖縄本島中部に位置する恩納村で、ドラセナを中心に葉物栽培を営む、外間勝嘉さん(五十七歳)は、前組合長として、組合運営にも携わっていらっしやった功労者でもあります。

二十歳から家業を受け継いだ外間さんは、全国各地に足を運び、多くの品種を採集。沖縄の環境に適し、需要のある品種の選出に試行錯誤を重ね、その情熱を注いでこられました。広大な圃場には、三十種類以上の品種が立ち並ぶ光景は、見るものを圧倒する途方もない苦勞の集大成です。

今では、その豊富な知識と確かな技術を、後継者である息子の巨兆さん(二十四歳)と、農業を学びに来られた従業員の木下さん(二十四歳)に指導する毎日が続いております。

巨兆さんは将来、お客さんの要望に伝えるため、収穫時期や、出荷方法について追究していきたいことが山ほどあると熱く語り、その飽くなき探究心と情熱は、脈々と次の世代に受け継がれているようです。

太陽の花